

(別添10)

指定管理者による公の施設の管理運営状況

令和 5 (2023) 年度

施設名	とちぎ健康づくりセンター・とちぎ生きがいきづくりセンター
施設所管課	保健福祉部保健福祉課、高齢対策課、健康増進課
指定管理者	社会福祉法人とちぎ健康福祉協会（法人番号2060005000772）
指定期間	平成31（2019）年4月1日～令和6（2024）年3月31日

1 施設の概要

施設所在地	宇都宮市駒生町3337-1	栃木市神田町9-40	矢板市矢板54
施設の概要	とちぎ健康づくりセンター・とちぎ生きがいきづくりセンター	とちぎ生きがいきづくりセンター県南支所	とちぎ生きがいきづくりセンター県北支所
	①敷地面積：196,190㎡ ②建物面積 本館：22,976㎡ 車庫棟：1,767㎡ 陶芸教室棟：459㎡ ③施設 (とちぎ健康づくりセンター) 温水プール、多目的運動フロア、会議室、トレーニング室、エアロビクススタジオ、ランニングデッキ、栄養指導室 (とちぎ生きがいきづくりセンター) 講堂、教室、演習室、和室、多目的ホール、テニスコート、陶芸棟	①敷地面積：4,700㎡ ②建物面積 本館：1,315㎡ 講堂兼体育館：583㎡ ③施設 図書・情報コーナー、講堂兼体育館、教室、演習室、和室、屋外運動場	①敷地面積：5,300㎡ ②建物面積 本館：1,552㎡ 多目的ホール：298㎡ ③施設 情報提供コーナー、多目的ホール、教室、演習室、和室
業務内容	①とちぎ健康づくりセンター ・センターの施設の維持管理に関すること ・センターの利用に係る事務（有料施設等の利用の許可に関するものを含む。）に関すること ・センターの運営に関すること ②とちぎ生きがいきづくりセンター（支所を含む） ・センターの施設の維持管理に関すること ・センターの施設使用料の徴収等に関すること ・センターの運営に関すること ③とちぎ健康の森全体管理 ・とちぎ健康の森の敷地の全体管理に関すること		

2 収支の状況

令和 5 (2023) 年度

(千円)

収入			支出		
指定管理 ※2	指定管理料	489,900	指定管理 ※2	事業費	40,899
	利用料金収入	59,203		管理運営費	342,269
	その他収入※1	59,935		人件費	159,995
				その他支出※1	18,029
	合計	609,038		合計	561,192
指定管理業務収支差額①		47,846			
自主事業		6,133	自主事業		7,287
自主事業収支差額②		▲ 1,154			
収支差額（①＋②）		46,692			

備考（※ 1 その他収入の主なものを記載） 水道光熱費等弁償金 23,756千円	備考（※ 1 その他支出の主なものを記載） 租税公課支出 18,029千円
---	--

※ 2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

令和 4（2022）年度（前年度）

（千円）

収入			支出		
指 定 管 理 ※ 2	指定管理料	489,900	指 定 管 理 ※ 2	事業費	39,597
	利用料金収入	64,572		管理運営費	351,947
	その他収入※ 1	61,066		人件費	156,613
				その他支出※ 1	15,022
	合計	615,538		合計	563,179
指定管理業務収支差額①		52,359			
自主事業		6,536	自主事業		5,550
自主事業収支差額②		986			
収支差額（①＋②）		53,345			
備考（※ 1 その他収入の主なものを記載） 水道光熱費等弁償金 26,025千円			備考（※ 1 その他支出の主なものを記載） 租税公課支出 15,022千円		

※ 2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

施設名	項目	令和 4（2022）年度 （前年度）	令和 5（2023）年度
とちぎ健康づくりセンター	施設利用講習	1,643人	1,936人
	体力測定	159人	252人
	健康づくり講座	969人	1,057人
	集団指導	9,317人	12,713人
	健康づくり相談	2,609人	2,896人
	プール・トレーニングルーム・ランニングデッキ	47,770人	63,975人
	運動フロア	0時間	879時間
	エアロビクススタジオ	1,073時間	1,379時間
	大会議室	1,362時間	1,141時間
	小会議室	413時間	815時間
	多目的フロア	1,163時間	925時間
とちぎ生きがいきづくりセンター	テニスコート	3,196時間	5,656時間
	講堂	318時間	376時間
	教室	1,338時間	1,202時間
	演習室	458時間	620時間
	和室	70時間	72時間
	多目的ホール	336時間	300時間
とちぎ生きがいきづくりセンター県南支所	講堂兼体育館	0時間	2時間
	教室	710時間	639時間
	演習室	0時間	0時間
	和室	282時間	270時間
	屋外運動場	0時間	0時間
とちぎ生きがいきづくりセンター県北支所	多目的ホール	70時間	128時間
	教室	830時間	878時間
	演習室	89時間	106時間
	和室	38時間	65時間

4 サービス向上に向けた取組

(全般) ・施設利用料及び授業料のコンビニ及びスマホ収納サービス導入による利便性の向上 (とちぎ健康づくりセンター) ・フリースペースの開放やインターネット予約対応、施設混雑状況の案内等、施設利用環境の整備 ・施設物品、貸出物品の充実 ・魅力ある集団指導、講座の開催 ・施設利用カードの更新対応日時の拡大 ・施設利用開始時間の繰上げ ・ホームページ及びLINE公式アカウントにおける情報発信 (とちぎ生きがいつくりセンター) ・地域課題や社会状況に応じた学習内容や、実体験を伴う学習機会の提供
--

5 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法	
(とちぎ健康づくりセンター) ・とちぎ健康づくりセンター利用者を対象としたアンケートの実施による把握 ① 調査年月 (1) 貸出施設等 ア 令和5(2023)年10月1日～同年10月31日 イ 令和6(2024)年3月12日～同年3月25日 (2) プール・トレーニング室等運動施設 ア 令和5(2023)年10月3日～同年10月9日 イ 令和6(2024)年3月12日～同年3月17日 ② 調査対象者 会議室等利用責任者とプール等の運動施設利用者ごとに、設問の内容を一部変えて実施した。 ③ 調査方法 アンケート用紙配布による調査(回答者数 1,456名 回収率 87.6%) 利用者意見箱「お客様の声」の設置 電話、口頭、メール等による意見等の受付 ④ 調査結果 施設の貸出及び利用サービスについて、「とても満足」及び「満足」と答えた人は、アの期間では85.7%、イの期間では81.2%を占めている。また、プール・トレーニング室等運動施設については、アの期間では85.6%、イの期間では79.4%と、昨年度同様、満足度は高水準を維持している。 当施設を選んだ理由としては、貸出施設では「交通の便」、「利用環境」、「利用時間」、プール・トレーニング室等運動施設では「利用環境」、「職員の対応」、「利用方法」、「駐車場」が評価されている。	
(とちぎ生きがいつくりセンター) ・シルバー大学校学生を対象とした授業内容に関するアンケートの実施による把握 ① 調査年月 令和5(2023)年4月～同年9月、令和5(2023)年10月～令和6(2024)年3月 ② 調査対象者 第43期生(1年次)372名、第42期生(2年次)349名 第44期生(1年次)401名、第43期生(2年次)367名 ③ 調査方法 アンケート用紙配布による調査(回答者数 延べ1,293名、回答率 86.8%) ④ 調査結果 授業内容について、「良い」または「普通」と答えた人の割合は、全体の90%以上であり、昨年度同様、カリキュラムに概ね満足していることがうかがえる。 ・シルバー大学校入学生を対象とした入学動機等に関するアンケートの実施による把握 ① 調査年月 令和6(2024)年1月 ② 調査対象者 第44期生(1年次)401名 ③ 調査方法 アンケート用紙配布による調査(回答者数 362名、回答率 90.0%) ④ 調査結果 シルバー大学校に入学したことにより「満足」、「やや満足」と答えた人の割合は、全体の83%だった。シルバー大学校を知ったきっかけとして、友人・知人の紹介が56%を占めており、また入学者自身も、友人や知人に勧めたいと答えた人の割合は全体の97%だったことから、学生によるPRがシルバー大学校の認知度向上に大きく寄与していることが分かった。	

主な利用者意見（苦情・要望）	対 応
（会議室等貸出施設） ・利用する時間より10分前倒して鍵を借りることができると利用しやすい。 ・障害者団体のため減免を受けられるとありがたい。 （プール・トレーニング室等運動施設） ・高血圧でも運動施設を利用できるよう何とかならないか。ホームページの利用規定に高血圧のことを載せて案内することが必要。 ・プール・トレーニング室利用時間の2時間を超えた超過料金は、施設利用カードのポイントで支払えないのか。 ・更衣室のロッカーが密になっているが、使用している反対側は空いている。ロッカーキー配布の間隔を開けると解消するのではないか。 ・日曜日も21時まで営業してほしい。 ・冷水機を早く復活させてほしい。	・前に貸出団体がいない場合は15分前から鍵の貸出を行っている。 ・参考意見とした。 ・とちぎ健康づくりセンターでは運動前に血圧測定を含む自己体調チェックを行い、血圧160/100mmHg以上の場合は運動を控えていただく方針であり、その場合の利用は主治医に相談することを提案している。 ・とちぎ健康の森ホームページに利用規定を掲載しているが、高血圧についての掲載は、高血圧の治療中またはコントロール中の方も利用できないと誤解を招く可能性があることも踏まえ、掲載の可否について検討する。 ・ポイント支払は入場料（利用券）に限定しているため不可である。券売機に超過料金支払の案内を表示する。 ・入場時に間隔を確保できるよう貸出を行っているが、利用者の滞在時間の違いによりタイミングが重なってしまったと思われる。利用時の注意事項等について説明・掲示を行っている。 ・参考意見とした。 ・トレーニング室前及び券売機横の冷水機を使用可能とした。
主な利用者意見（積極的評価）	
・ホームページから空き状況を確認できるため助かる。 ・駐車場は広く停めやすい。 ・サウナが復活して良かった。 ・スタッフが親身になって励ましてくれるため良い。 ・掃除が行き届いていて清潔感がある。	

6 指定管理者による自己評価

成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組
（とちぎ健康づくりセンター） ・引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながら施設運営に努めた。利用人数制限を段階的に解除するとともに、プール及びトレーニング室におけるリアルタイムの混雑状況をホームページ及びLINE公式アカウントへ掲載する等、サービスの向上を図った。 ・プール及びトレーニング室の利用開始時間の30分繰上げを継続して行ったほか、利用促進キャンペーンを実施し、利用者の確保に取り組んだ。 ・LINE公式アカウントから随時情報提供を行った。 （とちぎ生きがいづくりセンター） ・ホームページ及び学校案内リーフレットのリニューアル、Xアカウントの開設を行い、シルバー大学校の認知度向上に向けた取組を行った。 ・引き続き、シルバー大学校への入学が高齢者の健康状態に与える影響を検証するため、第44期生を対象に健康度測定を行った。 ・入学時に加え新たに1年修了時及び卒業時にもアンケート調査を実施するとともに、卒業生に対して

卒業後の活動調査を行った。	
指定管理者の提案事項に対する自己評価 ※指定管理者が独自に設定	
目標 1 利用者の安全・安心を確保 ①施設・設備等の適切な維持管理 ②省資源・省エネルギーの取組強化 ③災害・事故等の危機管理対策の徹底 ④利用者の個人情報保護の適正管理	①定期設備点検を実施し、適時、修繕等を行った。警備員による巡回や職員による定時巡回の実施により、安全の確保と環境の保全を図った。 ②入居団体と連携し、エネルギー使用量の削減を図った。 ③防災訓練の実施により、防災意識の向上を図るとともに、消防用設備等の定期的な点検を実施した。 ④関係法令等を遵守するほか、指定管理者が定める「個人情報保護に関する要綱」及び「特定個人情報の取扱いに関する要綱」等に基づき、管理体制を整え適正に取り扱った。
目標 2 利用者ニーズや利便性を考慮した施設運営 ①施設利用開始時間の繰上や新たな利用料等の納入方法の検討等 ②利用者の状況に応じた指導や配慮	①貸館及びプール等においては、利用者ニーズを鑑み施設利用開始時間を条例規定の時間より30分繰り上げた。施設利用料及びシルバー大学校授業料等についてはコンビニ及びスマホ収納サービスに、貸館や集団指導等についてはインターネット予約に引き続き対応した。 ②ハイリスク者等に対して保健師面接を実施し、安心安全な利用に繋げた。 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら一部制限を緩和し、集団指導の予約人数枠の拡大等を行った。
目標 3 新たな利用者の掘り起こし ①効果的な広報活動やイベント等の実施 ②とちぎ健康づくりセンターの利用者の増加対策 ③とちぎ生きがいづくりセンターの利用者の増加対策	①ホームページの内容をリニューアルし随時更新を行うとともに、LINE公式アカウントから集団指導や講座の情報発信を行った。 「とちぎ健康の森フェス2023」の開催や、毎月第3日曜日の「家庭の日」における運動フロアの無料開放を再開する等、県民へのPRに努めた。 シルバー大学校では、学生や同窓会による地域活動の際の広報パネルや大学校名入りのベストの貸出を行い、地域でのシルバー大学校の活動への理解と周知を図った。 ②働く世代への健康づくり支援を目的に導入している企業・団体向け利用チケット制度のさらなる利用拡大を図るため、企業向けサービスのパンフレットを作成し、一般企業等へ営業活動を行った。 閑散期となる冬季期間に施設利用ポイント等が抽選で当たる利用促進キャンペーンを実施した。 ③入学者数確保のため、各広報媒体による周知を行うとともに、在校生及び卒業生に広報への協力を呼びかけた。 県民の日協賛行事の一環で、各校で公開授業を実施した。
目標 4 健康寿命の延伸や健康格差の縮小に向けた取組 ①集団指導及び運動指導の実践 ②健康づくり講座の実施 ③利用者ニーズに応じた体力測定、運動実践メニューの作成	①集団指導の定員を会場に応じて変更した上で事前予約制とした。日時や運動強度別のレッスンを引き続き設定し、利用者が選択・参加しやすいよう配慮した。 イベント「とちぎ健康の森フェス2023」内で特別レッスン2種を各1回開催した。 ②保健師・栄養管理士・健康運動指導士の専門職員の連携により、効果的な健康づくりにつなげた。 ③体力測定の結果をもとに運動実践メニューの作成及び定期的な見直しを行い、継続的に健康づくりの支援を行った。

④健康づくりに関する相談の実施や情報発信、普及啓発	④月別テーマを設定し、来館者に対し健康づくりの情報発信を行った。
目標 5 地域や団体等に出向いた講座や研修会等の実施 ①企業・団体等と連携した出張講座等の開催 ②市町職員等の健康づくり活動を支援する研修会の開催 ③県南・県北支所を活用した講座等の実施	①全国健康保険協会栃木支部加入企業において「運動セミナー」、警察共済栃木県支部において職員を対象とした健康講座、県内シルバー人材センター会員を対象としたフレイル予防講座を実施した。その他、地域に出向いてフレイル予防講座、ヨガ体験、体力測定等の講座を実施した。 ②栃木県健康づくり研修を実施した。 ③実施しなかった。
目標 6 ノウハウを活かし新たな独自講座等の実施 ①各種データの分析結果の公表及び市町・関係機関への情報提供 ②調査研究の成果を活かした独自講座の実施	①運動実践メニューを作成した利用者を対象に評価・分析・検証を行い、結果を事業報告書として取りまとめ、ホームページに掲載した。 ②メタボリックシンドローム解消等を目的とした長期講座において、毎年データの分析を行い、その成果を第61回栃木県公衆衛生学会へ提出し発表を行った。
目標 7 地域課題等を反映した学習カリキュラム ①地域課題等と向き合い、実体験できる学習内容の提供 ②学生ニーズを反映した学習カリキュラムの見直し ③県及び市町・関係団体等との情報交換や意見聴取	①福祉ボランティア活動実習や災害福祉マップづくり、食生活改善等地域の健康づくりのための学習等、地域課題や社会状況に応じた学習内容や実体験を授業に組入れた。 ②学生の理解度や満足度、意見等を踏まえ、カリキュラムの見直しを行った。 ③全国明るい長寿社会づくり推進機構連絡協議会主催のテーマ別会議に参加し、全国の関係団体と情報交換を行った。
目標 8 卒業後の地域活動に繋がる効果的な仕組み ①在校生に対する地域活動に向けた支援 ②卒業生に対する地域活動の支援 ③シルバー大学校の認知度向上に向けた広報活動	①在校生の同窓会活動への理解を深めるため、同窓会支部の活動状況の説明や、合同で活動する地域学習をカリキュラムに加えた。 学校内にボランティア活動及び同窓会に係る掲示板を設置し、各活動の現状報告書や活動計画書を掲示した。 ②シルバー大学校教室について、卒業生の学習やクラブ活動等の会場として提供した。 全国明るい長寿社会づくり推進機構推薦の地域活動の一例である「ふまねっと運動」については、組織化に向け継続的な活動を支援した。 ③シルバー大学校のボランティア活動等が広く県民に認知されるよう、活動用ユニフォームやのぼり旗を卒業生に無料で貸し出しを行った。 ホームページ及び学校案内リーフレットのリニューアル、Xアカウントの開設を行い、積極的に情報発信を行った。
目標 9 当協会の福祉施設や他の事業等と連携した取組 ①在校生や卒業生による健康づくり事業との連携・協力 ②生きがい推進員の活動支援やねりんピック事業への参加促進	①シルバー大学校への入学が高齢者の健康状態に与える影響を検証するため、第44期生を対象に健康度測定を行った。 ②校内のポスター掲示、チラシの配布、在校生及び卒業生に対する一斉配信メールの送付や朝礼での呼びかけにより、参加を促した。

③とちぎ健康福祉協会の福祉施設や関係団体等との連携	③地域活動の選択肢を広げるため、関係団体の事業・活動を紹介する授業を実施した。
今後改善・工夫したい事項	
(とちぎ健康づくりセンター) ・県全域への健康づくり事業の展開 ・働く世代の健康づくりとして、企業向けサービスの拡充 ・施設・設備の経年劣化による修繕への対応 (とちぎ生きがいきづくりセンター) ・入学者の確保 ・認知度向上に向けた取り組み ・魅力あるカリキュラムの編成 ・卒業後の地域活動に繋がる効果的な仕組みづくり	

7 所管課による評価

項目	評価の内容	確認内容・所見等	評価
1. 住民の平等利用の確保	① 住民の平等利用が確保されたか。	とちぎ健康づくりセンターの利用許可は原則として先着順、また、とちぎ生きがいきづくりセンターのシルバー大学校の入学希望者が定員を超過した場合には抽選によるなど、公正・公平な方法で利用者を決定しており、平等利用は確保されている。	B
	② 使用許可に関する権限が適正に行使されたか。	条例・規則等に基づき手続が実施されており、適正な管理が行われている。	B
	③ 高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか。また、平等利用が確保できない場合の対応は適切か。	(とちぎ健康づくりセンター) 高齢者や障害者の利用に際しては、スタッフによる見守りを強化するなど適切な配慮がなされている。 (とちぎ生きがいきづくりセンター) 障害者用トイレ、スロープ、エレベーターを設置しており、高齢者、障害者等に配慮した環境が整っている。また、身障者の受入実績があり、平等利用は確保されている。	B
2. 施設の効用の最大限発揮	① 施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか。	利用実績やアンケート結果等から、施設の設置目的に沿って業務が適正に実施されている。	B
	② 施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を引き続き講じながら施設運営に努めるとともに、運動施設の混雑状況に関する情報発信や利用促進キャンペーンを実施する等、施設の利用促進やサービスの向上が図られている。	A
	③ 利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか。	利用者アンケートを実施し、利用者の満足度を把握しており、また、その結果から利用者の満足度は高い水準を維持している。	B
	④ 利用者からの意見、苦情に対して適	利用者アンケートや意見箱等に寄せられ	B

	切な対応がなされたか。	た意見・苦情に対して、指定管理者が対応できる事項については速やかに対策を講じており、適切な対応がされている。	
	⑤ 施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか。	施設、設備、備品の定期点検を行い、不備があった際は指定管理者が対応できる範囲で速やかに対応しており、適切な対応がされている。	A
	⑥ 指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか。	(とちぎ健康づくりセンター) ホームページのリニューアル、LINE公式アカウントによる情報発信や運動施設の混雑状況のホームページ等への掲載等、サービス向上に向けた取組が実施されている。 (とちぎ生きがいつくりセンター) 学生及び卒業生に対するアンケート調査を随時実施し、その結果を学校運営や広報に効果的に活用している。	A
3. 管理を安定的に行う物的人的基礎	① 組織体制は適正か。	管理運営のための適正な人員配置がなされている。	B
	② 収支は適正でバランスがとれたものか。	指定管理委託料の範囲内で適正に実施されている。	B
	③ 経費の縮減に取り組まれてきたか。	照明のLED化を推進するとともに、不要な照明を消灯するなど光熱水費の縮減に取り組んでいる。	B
	④ 人材育成は適切に実施されているか。	(とちぎ健康づくりセンター) 職員の業務内容に応じた研修が計画的に実施されている。 (とちぎ生きがいつくりセンター) 明るい長寿社会づくり推進機構開催研修に参加し、資質の向上に努めている。また、新任者向けに勉強会を開催し、運営等の円滑化を図っている。 (全体管理) 施設管理に必要な研修を計画的に受講している。	B
	⑤ 危機管理体制（事故、緊急時の対応）は確保されているか。	入居団体との連絡調整や併設施設との緊密な連携のもと、防火・防災・防犯対策等を講じており、危機管理体制は確保されている。また、限られた職員で対応する夜間を想定した消防訓練を実施するなど、対応力の強化に努めている。	A
	⑥ 県や関係機関との連携体制は確保されているか。	県及び関係機関を含めた緊急時の連絡体制一覧を作成・共有しており、連絡体制は確保されている。	B
4. 個人情報保護	① 個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか。	「個人情報の保護に関する要綱」及び「特定個人情報の取扱いに関する要綱」を定め、取扱いに十分に配慮し、適正な維持管理に努めている。	B
	② 情報公開は適切になされているか。	「情報公開に関する要綱」を定めている	B

		が、当該年度における開示請求はなかった。	
5. その他	① 施設の特性にふさわしい自己評価がなされているか。	利用者アンケート等の結果に基づき、指定管理者が対応できる事項については速やかに措置を講じるなど、適正な自己評価がされている。	B
	② 自主事業が計画どおりに実施されているか。	運動用具や会議用物品の貸出し、コピー・FAXサービス等おおむね計画どおりに実施されている。	B
	③ イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか。	「とちぎ健康の森フェス2023」を開催し、講演会の開催や骨密度測定・健康相談、健康づくり体験レッスン等、県民の健康づくりに取り組んだ。 シルバー大学校在校生及び卒業生によるボランティア活動等の実施の際、活動用ユニフォームやのぼり旗を貸出し、県民の認知度向上を図った。	A
	④ 環境への配慮（騒音・光害対策、ごみ削減等）がなされているか。	照明の間引き点灯や入居団体と連携した空調の使用減により、省エネルギーに取り組んでおり、環境への配慮がなされている。	B
	⑤ その他管理運営上の特記事項	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を引き続き講じ、利用者が安心して施設を利用できるよう努めている。 ICTを活用したサービス向上に継続的に取り組んでいる。	B
総合的な評価			
・全般的におおむね良好な管理運営状況であると認められる。必要な修繕等を適切に行うなど、施設の安定的な運用に努めている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、施設利用の活性化に向けて工夫が見られた。引き続き、県民の健康増進や生きがいづくりに資する積極的・効果的な事業展開及び対外的なPR活動の強化を期待する。			

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して優れた取組となっている。
- B：事業計画どおりの取組となっている。
- C：事業計画に対して劣る取組となっている。
- D：事業計画に対して著しく劣る取組となっている。